

▶チューブソリレース

▼人気のスノーラフティング



大人も子どもも雪まみれになって

～にかほ雪まつり2009～

1月25日、中山スキー場でにかほ雪まつり2009が行われました。冬を楽しもうと市観光協会が主催したもので、市内外から家族連れなどたくさんの方が訪れ、多彩なイベントを体験し、楽しんでいました。

中でも大人気だったのがゴムボートに乗り、スノーモービルで引かれ雪原を疾走する「スノーラフティング」。時折強く降りつける雪を顔に受けながらも、ハンドルを切る度に左右に振られるスリル感や大自然の中を走る爽快感に、大人も子どもも大満足の様子で、順番待ちの列が途切れることはありませんでした。

寒さに耐えて鍛えられる心

～空手寒稽古～

1月17日、県内の実戦空手4団体による合同寒稽古が平沢海水浴場などで行われました。厳しい寒さに耐えて心身を鍛えようと、円掣会渋谷道場（渋谷春夫館長）や沖縄武道空手（佐藤忠師範）などから、一般と少年部合わせて約50人が参加しました。

小雪が舞う中、海水浴場まで、道着のままランニング。その後、砂浜の波打ち際で、時に海中に身を浸しながら、素足で空手の型を繰り返しました。皆、達成感を漂わせた誇らしげな表情で、稽古を終えていました。

波打ち際でエイヤ!



▼白瀬南極探検隊記念館前を出発する雪中行進



◀講演を聴く中学生の真剣な表情

白瀬が後世にもたらしたもの

～第42回白瀬中尉をしのぶ集い～

1月28日、白瀬中尉をしのぶ集いが開催されました。保育園児などを含め約350人が参加した雪中行進は、記念館前を出発し、中尉の生家である浄蓮寺を墓参。沿道では、多くの市民が南極探検旗を振って、行列を迎えました。

仁賀保勤労青少年ホームで行われた講演会・シンポジウムでは、中尉が果たした偉業が、その後の南極観測でのオゾンホール発見につながったことなど、後世にもたらした功績などが語られました。探検隊が南緯80度5分の地点「大和雪原」に到達してから97年後のこの日、参加者たちは改めて故郷の偉人に思いをはせているようでした。

2月4日、金浦漁港から金浦山神社までの道のりを、大タラを担ぎながら練り歩き神社へ奉納する「掛魚まつり」が行われ、約6,000人の人出で賑わいました。

このまつりは、各漁船で捕れた一番大きなタラを1匹ずつ竹ざおにつるし、漁師たちが2人一組で担ぎ、街を練り歩きながら金浦山神社へ奉納し、ことしの大漁と海上安全を祈願します。

この日、持ち寄られた大タラは20匹。大タラは、社殿に奉納されたほか、社殿前にも並べられ、訪れた観光客たちが盛んに記念写真を撮影していました。また、イベントとして神社向かいの勢至



300年以上の伝統を誇る祭り

掛魚まつり 開催



人気のタラ汁コーナー



伝統芸能の集いで披露された釜ヶ台獅子舞



大タラを担ぎながら金浦漁港から金浦山神社までの道のりを練り歩く漁師たち

公園内では、たくさんの大漁旗が寒風になびく中、タラ担ぎ体験とタラ汁などの販売、公園隣の施設「エニワン」内では、市内7団体による伝統芸能の集いが行われました。

公園内で販売された人気のコーナーでもある「タラ汁」には、ことしも長い行列。約1,500食が販売され、訪れた観光客たちは、寒空の中で温まる本場の味を堪能している様子でした。

安心して暮らせる街づくりを誓う

～交通指導隊・防犯指導隊初出式～



市長、警察署長、市議会議員らに点検を受ける両指導隊員

1月13日、象潟公民館を会場に「交通指導隊・防犯指導隊初出式」が行われました。

会場には、交通指導隊員・防犯指導隊員をあわせて約40人が出席。

両指導隊員は、市長や警察署長、市議会議員らによる点検を受けた後、両隊長による宣誓等が行われました。

ことしも両指導隊員は、地域住民が安心して暮らせる住みよい街づくりとして、交通事故防止や犯罪の未然防止などへの誓いを新たにしました。